

今夏、城南島に拠点を新設する、品質の良さと信頼を集める老舗運送店。主力業務は塗料の運送と産業廃棄物の中間処理

今回登場する城南島の企業は、老舗運送会社、品川区南品川に本社を置く株式会社小野運送店の城南島事業所（仮称）。現在地盤強化工事を行っており、事業開始は今年7、8月の予定。工事現場を拝見した後、城南島連合会事務所産廃営業部の里吉正人部長にお話を伺った。

中澤：御社は創業一〇〇年を越えるという大変歴史のある会社ですね。
里吉部長：明治29年、1896年の創業です。個人商店、学校法人を別にし、品川区内で100年以上事業を続け



左は明治の創業期に活躍した荷馬車。小野運送店では今でも馬への感謝を込めて、馬頭観音を祀り、毎年2月にはお祭りを行っている。右は昭和初期のころに使われていた自動車。この車を見たいという顧客もあるそうだが、保存はされていない。



株式会社小野運送店 産廃営業部部長 里吉正人氏

中澤：城南島に全部ゴミから再生されたことになり。お預かりしたゴミは全部リサイクルすることになります。

ている企業は数社しかないようです。塗料等の液体系危険物の配送を主に扱っています。車輛は約130台、従業員は約250人で、その8割はドライバーです。中澤：産業廃棄物も扱っておられるんですね。
里吉：塗料を運んでおりますので、お客様から塗料のゴミを扱って欲しいというご要望があつて、20年ぐらい前から取扱が特殊になります。塗料の廃棄物の収集運搬をライセンスをとって始めました。
中澤：城南島は倉庫になるんですか？
里吉：城南島では主として危険物の倉庫と一般物の取扱の中継拠点、産業廃棄物の中間処理ということになります。
中澤：中間処理とは？
里吉：ある形のもの进行分类、処理することなんです。塗料は液体ですから分けることが出来ません。そこで、混練固化という方法がありまして、水性の塗料と廃粉体と薬剤を混ぜて練ると固まってペレット状の、一種の燃料ができます。これはセメント会社の原料の一部になります。全部ゴミから再生されたことになり。お預かりしたゴミは全部リサイクルすることになります。



大田区城南島2-22-17の工事現場。奥の土地を掘り下げて地盤強化作業が行われている。事業開始は今年7、8月の予定。

の敷地は250坪ですね、御社の規模では狭くありませんか？
里吉：南品川ですと周りが住宅地で保育園や学校がありますから、環境的に大型車が入りづらいんです。城南島は敷地としては少し狭いのですが、その問題を解消できますし、アクセスし易いので各拠点との連携にも非常に有利です。
中澤：城南島の事業所は社員さんが常勤されるようになるのですか？
里吉：当初は荷物が入った時にドライバーが出入りしますが、設備が全部できませんと、特に中間処理は絶対的に人がいないとセキユリテイ面でも法律的にもダメなので、常駐が必要になります。
中澤：工事の進展はいかがですか？
里吉：大型車が入りしやすいので、今は



信用第一、品質第一。ドライバー教育には特に力を入れている。

少し掘り下げて地盤補強をしています。その後に、小さい倉庫を建てますが、作業は風が強いとリスクが大きいです。建物を囲えるようなものを作りまして、そこが終わった時点で中間処理の設備をします。危険物と中間処理の施設が、それぞれの確認をとらないと次に進めないで少し時間が掛かります。すべての事業がスタートするのは7、8月ごろになると思います。
中澤：御社の業務ですと従業員さんも大変ですね。
里吉：事故の他に漏洩も大問題です。ドライバーの社員教育は厳しくやっております。ドライバーは若手が欲しいのですが、仕事が厳しいこともあり不足気味です。小型免許しか持っていない若い人には、会社が大型の免許を取りに行かせるようにしています。フォークリフト、危険物取扱のライセンスも必要になります。まだ、100%ではありませんが、2年ほど前から危険物取扱はドライバー全員に取らせようとして、現在、三種を合わせて70%のドライバーは危険物取扱の免許を取得しております。今後100%を目指していきます。